

「富士山周辺地域における鉄道を使った避難」

関根暢之

要旨

わが国では、1991年雲仙普賢岳噴火、2014年御嶽山噴火など、いくつもの火山災害が発生している。また、日本の象徴ともされている富士山は、300年以上噴火をしておらず、大規模な噴火の発生が危惧されている。そのような中、2000年に発生した有珠山噴火では、JR北海道の列車が住民の避難に利用される、という事例があった。

そこで、先述のとおり今後大規模な噴火の発生が危惧されている富士山の周辺地域を走る4社5路線（富士急行線、東海旅客鉄道御殿場線、東海旅客鉄道身延線、伊豆箱根鉄道大雄山線、小田急小田原線）を対象に、輸送力（車両および線路容量）、橋梁等設備や土砂災害警戒区域の有無、乗務員所属組織や車両基地等の位置などの観点から、住民の避難に活用できるか、検討するものである。また、それにあたっての法的根拠や火山灰が列車運行に与える影響についても検討している。